

# 高台の神社を再建 ①元関係たちがお手伝い

▶多くの人の手を経て、狭い階段つたいに神社の材木が高台の上まで運ばれた(2019年8月7日 画像:毎日新聞)



東日本大震災の津波から逃げてきた住民を救った双葉町の高台にある神社で、地震で倒壊した社殿を再建するため、大相撲の力士たちが手伝って資材を運び上げる作業が行われました。

双葉町の諏訪神社は、海沿いの海抜およそ30メートルの高台にあったことから、震災の時、およそ50人が避難し、津波から命を救った神社として知られています。

社殿は地震の揺れで倒壊し、その後、原発事故による避難指示で手つかずの状態が続いてきましたが、ことし6月から、大阪の建設会社が無償で再建を進めていて、7日、資材の荷揚げ作業が始まりました。

現場は急な階段になっていて、資材を機械で上げるのが難しいことから、7日は、建設会社と付

(8月7日 NHK福島NEWS WEB)

# ②四股を踏んで邪気をはらう

き合いのある大相撲の尾車部屋に所属する元関脇・豪風の押尾川親方と力士3人が参加し、ボランテアで集まった住民などと一緒に、重さ10キロほどの角材を手渡して運びました。

荷揚げのあと、力士たちは「地中の邪気をはらう」という意味を持つしこを踏んで、工事の安全を祈願しました。

押尾川親方は、「森に囲まれてすごくパワーを感じる神社だ。地域の復興にかかわる重要な仕事だったので、責任感を持って取り組ませてもらった」と話していました。

また、諏訪神社の木幡輝秋宮司は、「近くでは復興祈念公園も整備されるので、多くの人が集い祈りをささげられる神社を作っていきたい」と話していました。

諏訪神社の社殿は、ことし10月末に完成する予定です。



▲2019年8月7日 NHK福島NEWS WEB



▲上棟式の様子(2019年9月3日 NHK福島NEWS WEB)

# ③9月3日、上棟式

震災の地震で倒壊しながら、津波から逃れた住民の命を救ったことで知られる、双葉町の高台にある神社で、再建中の社殿の屋根が組み上がり、関係者が完成後の無事を祈りました。

双葉町の諏訪神社は、海沿いのおよそ30メートルの高台にあり、震災のときおよそ50人が避難して津波から逃れましたが、社殿は地震の揺れで倒壊しました。

その後、地域には避難指示が続き、手つかずの状態でしたが、日中の立ち入りはできるため、ことし6月から再建が始まり、3日は屋根が組み上がったことを祝う「上棟祭」が行われました。

地元の関係者や施工業者など20人あまりが集まり、「千年、万年、永遠に建物が持つように」という意味を込めたかけ声とともに、施工業者が屋根の骨組みをつちで打って、完成後の無事を祈りました。

新しい社殿は、延べ床面積が84平方メートルと以前の社殿よりも広めに設計されていて、ことし10月末に完成する予定です。

諏訪神社の木幡輝秋宮司は、「屋根を見て、すばらしい社殿ができるなど実感できてうれしい。近くに整備される復興祈念公園とあわせて、人々が震災と原発事故を思い起こせる場所としてしっかり残していきたい」と話していました。

(9月3日 NHK福島NEWS WEB)

we support RQ 災害教育センター

MONTHLY

復興支援 『すけさきた』 しんぶん

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め 「すけさきた」とは 宮城県登米市あたりの言葉で 「ボランテアに来たよ」という意味である

SEPTEMBER 11 2019

